【町長】

通告順	3	質問議員	上野議員
質問項目	町民が理解しやすい施設や事業の名称にすべきと思う。		
質問内容	公共施設の名称が解りづらく、場所を探すのに時間がかかるとの声が高齢者からあります。 又、昔は「町政懇談会」、「町づくり懇談会」、今は「ふるさと創造懇談会」と変更しましたが、何か町民にメリットはあるのでしょうか？ 施設を含め利用しづらくて町民本意に名称を変更する考えはありませんか？ 沼田にある温泉の各名称が多く利用者のお客様が館内で迷う事をなくすべきと思う。 名称よりも大切な事があると思うので、町民以外の人がすぐ解かる施設や事業の名称にして、子供達にも解かりやすくすべきと思うが町長の考えを伺いたい。		

【町長】

通告順	4	質問議員	上野議員
質問項目	沼田町の産業を発展させ人口増にすべきと思う。		
質問内容	沼田の基幹産業は農業ですが、沼田町には山林があり、林業を今以上に力を入れ、町の発展に繋げるべきと思う。 今、世界中で木材の高騰と新聞に出ました。沼田町の一社、木材会社がありますが、製材を休止していますが、是非復活させるべきと思う。 又、沼田の土を使った土管工場があり、農業の暗渠に使用されとても助かっていますが、塩ビ管も使用されるようになり、土管の利用が減ってきたとの声が聞かれます。 何十年経っても水が流れやすい土管の良さを、ＰＲを行政でも力を入れ、産業の発展と人口増に繋げるべきと思うが町長の考えを伺いたい。		

2021年
5月28日
金曜日

北海道新聞

発行所
北海道新聞社
〒060-8711
札幌市中央区大通西3-6
電話 011-221-2111
www.hokkaido-np.co.jp

米など住宅需要急増

新型コロナウイルスの流行に伴う在宅勤務やテレワークの普及を受け、米国などで住宅需要が高まり、世界的に木材価格が高騰している「ウッドショック」が道内にも波及している。輸入材の調達が困難になり、仕入れが停滞。一部で住宅着工に遅れが出ているが、注文が急増している道産木材も供給に限界があり、住宅産業全般に影響が広がっている。（芝垣なの香）

世界中で木材高騰

業者「対応しきれない」

道産材に注文殺到

「住宅建築が集中する夏の短い需要期に、尋常ではない事態が起きている」。カナダなどから木材を輸入し、道内の工務店に販売する丸十木材（帯広）の中田隆之社長は肩を落とす。

木枠に壁を張り付けて建てるツーバイフォー工法に使う輸入材の仕入れ値は、4～6月分を調達した2月時点で1立方㍍当たり10万円と、前年の2倍に上昇。まもなく調達する7～9月分は3倍以上になる見通し。柱や梁（はり）を組み合わせる軸組工法の輸入材は注文の半分しか入荷できていない。

札幌などでは住宅着工に遅れも生じ、工務店側は「高値でも売ってほしい」と要望するが、供給が追いつかない。輸入材販売のアサノ（大阪）の札幌営業所は、夏場の道内入荷量が昨年から半減するとみて受注の一部を断っている。道内の住宅メーカーは「値上がり分を吸収しきれない」としており、販売価格への転嫁は避けられない見通しだ。

米国ではコロナ禍を受け、郊外での住宅着工やDIY需要が急増。木材の先物価格がこの1年で6倍に跳ね上がった。経済活動が回復基調にある中国では、同国企業がオセアニアから建材を大量に買い付けるなど世界的に獲得競争が過熱。木材を海上輸送するコンテナの不足も輸入材調達を一段と難しくしている。

こうした中、道産材にも注文が殺到。道南スギの活用に力を入れる製材業ハルキ（渡島管内森町）には2月以降、米国や台湾からも問い合わせがあり、半年先まで予約で埋まった。同社は道内企業を最優先に販売しているが、「ありがたいが極端で、対応しきれない」と困惑気味だ。

道産材は主に梱包（こんぽう）材にいられ、建材加工用のや担い手は不足気味だ道が残雪で閉ざされてを搬出できないなど、増産は難しい。輸入材が落ち着けば需要が急る恐れもあり、設備投も慎重にならざるを。北海道木材産業協合連合会の内田敏博副は「道産材への注目を性にせず、安定的な向けて関係団体が知恵るときだ」と指摘する。

丸十木材の輸入材。世界的な木材需要増で調達が難なっている（井上浩明撮影）

TOKYO 2020

オリンピック まで 56日
パラリンピック まで 88日

5分でわかる

日ＥＵ首脳「台湾安定」で一致 2

菅義偉首相はＥＵ定期首脳協議で、台湾海峡情勢について「平和と安定の重要性」の認識で一致。

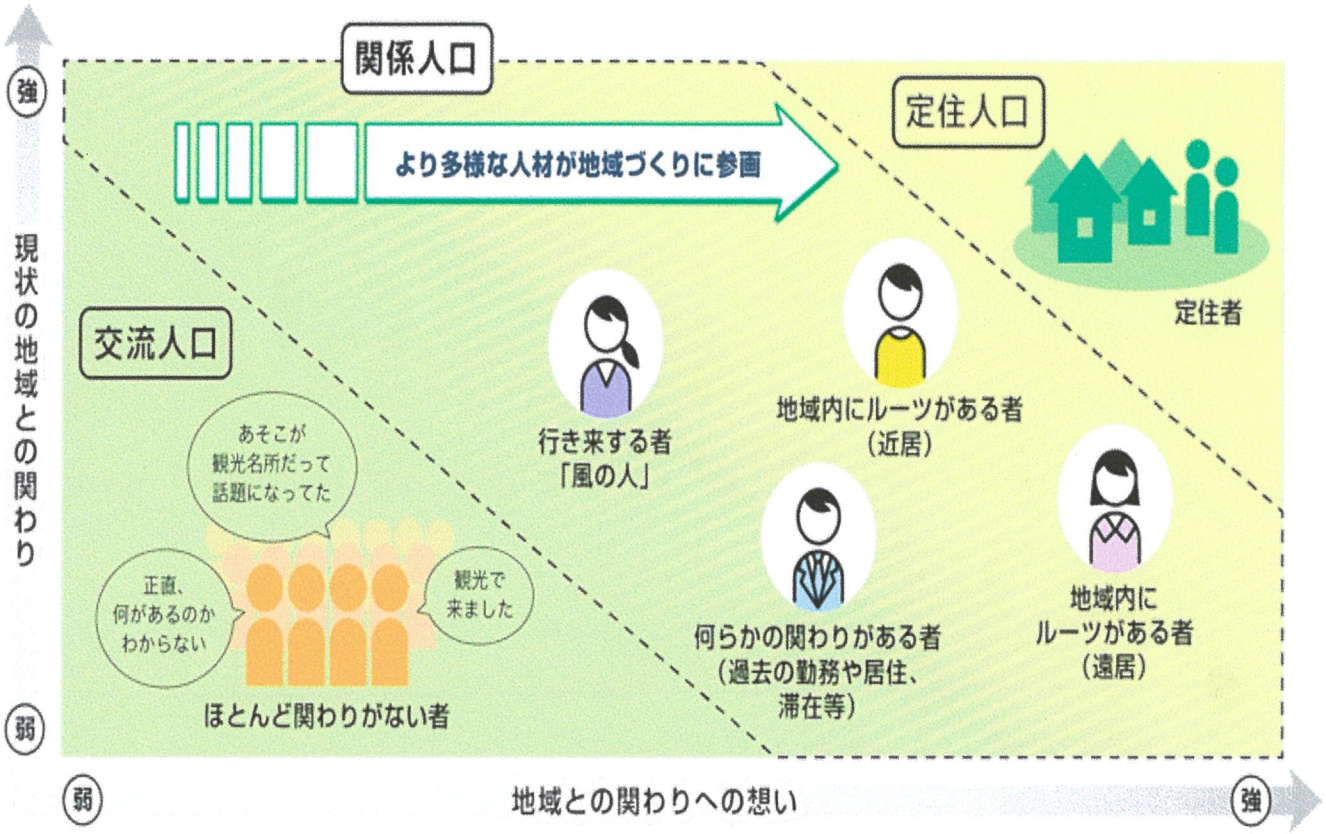
石勝線脱線事故10年 新たな課題 3
ＪＲ石勝線で79人が負傷した脱線炎上事故から10年。利便性と安全性の両立など新たな課題が浮上している

ファーストフォーカス FOCUS

【町長・教育長】

通告順	5	質問議員	高田議員
質問項目	高穂スキー場整備計画はこれでいいのか		
質問内容	現在、高穂スキー場整備計画が取り纏められています。複数年にわたりますが、総額で約５億円の大事業であります。単に体育施設の老朽化に伴う施設の更新事業に止まることなく、「観光客の集客」や「関係人口の増加」に向けた取り組みを期待しています。 予算委員会の時も指摘しましたが、施設の整備だけが議論されています。６月３日の全員協議会の説明では夏季の施設利用の説明がなされました。しかし観光の域は脱しておらず限定的であり、関係人口へのアプローチは何ひとつありませんでした。 「移住定住」や「ふるさと納税」を効率的に進めるためには、何もしなかったら観光客として通り過ぎてしまう「交流人口」を「関係人口」にする「きっかけ」と「アプローチ」が必要です。 地方創生の第２期計画を策定するとき話題になった「関係人口」と言う言葉ですが、総務省のホームページでは４つのタイプに分類されています。「沼田町高穂スキー場」が持っている冬季間における本来の特徴を生かし、それぞれのタイプ毎に「交流人口（観光客）を関係人口にする施策」を用意するべきです。 施設の設置目的に関しては町長に、計画の策定過程に関しては教育長にそれぞれ考えを伺う。		

交流人口と関係人口



総務省HPより引用

交流人口の「縁」と「感情」・関係人口への「きっかけ」と「アプローチ」

Ver. Numata

行き来する者（風の人）

楽しくて何度も来てしまう　→ リピーター化

「初めて夜高あんどんを観に来ました、来年も来ます」

→夏の間沼田に住んで、あんどんを作って祭りに参加しませんか？
町の人と交流しながら「ちょこっと暮らし」が体験出来ます

何らかの関わりがある者（過去の勤務や居住）

忘れられない思い出（人・事）→ 第二の故郷化

「沼田小学校に勤務しているとき、妻と結婚しました」

→リタイアしたら、沼田に家を建てませんか？
新築するなら、最大数百万円を助成する「定住制度」があります
中古住宅の購入にも、助成する「定住制度」を用意しています

地域内にルーツがある者（近居）

いつか故郷にもどりたい　→ 町の出身者

「子供の頃は沼田に住んでました、化石に興味があります」

→化石ボランティアをして下さい、沼田から通勤しませんか？
仕事は今のままで、町外への通勤には「通勤手当制度」があります

地域内にルーツがある者（遠居）

子供の頃よく遊びに行った　→ 懐かしい祖父母の故郷

「沼田に住んだことはありませんが、祖父母のお墓があります」

→沼田にお墓参りに来て、沼田のイベントを体験しませんか？
「ぬまた応援隊」になって、沼田のことをもっと知って下さい